

道内の経済関係者らがつくる「北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会」が、2020年夏開催の東京五輪・パラリンピックの会場や関連施設などに、保存した雪や氷の冷気で開花時期を遅らせたサクラを提供する構想を進めている。雪氷エネルギーの可能性をアピールする狙いで、近く日本オリンピック委員会（JOC）関係者に打診する方向で調整している。

つばみのついたサクラの枝は、低温状態にすることで一時的に開花の動きを止めるこ

真夏の東京五輪に サクラ❀届けたい

■道内経済有志が構想

とができる。08年7月の北海道洞爺湖サミットでも開催期間中に、「美唄自然エネルギー研究会」（事務局・美唄市）と伊藤組士建（札幌）が雪で開花時期を遅らせたエゾヤマザクラなど250本を国土交通省などに提供し、新千歳空港や関連イベントの会場などに飾られた。

今回の構想は、道内の市町村などにつばみのついたサクラの枝を提供してもらい、空知管内沼田町の雪を使った低

温倉庫などで保管し、五輪開幕に合わせて発送。環境に配慮して、サクラの枝は剪定で捨てるものを集める計画で、1万本が目標だ。

現時点では、JOC側の受け入れも不透明だが、呼びかけ人の一人、札幌市の会社役員越智文雄さん（60）は「猛暑の東京で季節外れの満開のサクラを楽しんでもらい、雪氷エネルギーを世界に広く知ってもらえれば」と話す。

（高橋俊樹）

▲保存した雪で開花時期を調整

東京五輪で桜を咲かせる計画

2020年春



北海道の雪蔵で活動停止

夏



高温で開花

2万本
東京へ輸送

真夏の東京 桜咲かそう

雪蔵で「冬眠」五輪合わせ輸送

東京五輪を北海道の桜で彩ろう——。道内の自治体や一部の企業が、雪水で低温管理した約2万本の桜の枝を夏の東京に輸送し、開花させる取り組みを始めた。「雪水エネルギー」で開花を遅らせるこの試みは、2008年7月の北海道洞爺湖サミットでも成功している。実行委では「北海道地震の影響を払拭するチャンスだ」と意気込んでいる。

道内に実行委

取り組みを進めるのは沼田町、紋別市、美瑛市などの自治体や道内の建設会社など8社でつくる「北海道雪水桜プロジェクト実行委員会」。

計画では、まず20年春に道内全域からつぼみのついた桜の枝を集め、雪や氷で室温0度程度に保たれた「雪蔵」で保管する。桜は雪蔵の中で活動停止の状態となっており、20年夏の東京五輪に合わせて雪蔵から取り出し、東京へ輸送する。桜は高温にさらされて活動を再開し、花を咲かせる——という流れだ。

実行委では、使用する桜にソメイヨシノなどを予定している。洞爺湖サミットで成功させた建設会社らが加わり、ノウハウを提供している。実行委は現在、日本オリンピック委員会（JOC）と協議を進めており、実現すれば、マラソン競技

の沿道で観衆に持つてもらったり、選手村に飾ったりすることを検討している。

実行委の越智文雄委員長は「北海道の雪水エネルギーをアピールするチャンスになる。まず来年の春から夏にかけて実験を行い、JOCを納得させたい」としている。